

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-1169											
施設名	渋谷東ちとせ保育園											
施設所在地	東京都渋谷区東4丁目7－8											
法人名	社会福祉法人ちとせ交友会											
活動期間	令和	7	年	5	月	から	令和	8	年	3	月	
活動内容の公表	✓	Instagramでの発信連絡アプリや園だよりで保護者に共有										
	公表したホームページ等のURL				http://							

2. 活動報告（注1）

番号	1											
テーマ	「食育」 日頃から身近で大事な「食」に注目し、子どもたちが苦手意識を持っている野菜を主役にした「食育」をテーマとして設定した。											
実施回数・期間 (注2)	令和7年5月～令和8年3月 リモート畑ツアー2回、畑ツアー1回、食育出前授業2回											
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス		1歳児クラス		2歳児クラス		3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス	
		人		人		人	11	人	9	人	12	人
活動内容 (注3)	・リモート畑ツアー 10月に収穫体験に訪れる農家さんと中継を繋ぎ、さつまいもの植え付けの様子をリモートで見学した。「さつまいもは苗から育つ」という発見や、季節の野菜に触れる機会となった。3月にも再度中継を行うことで、農家さんが年間を通してどのように野菜を育てているのかを知り、さらにその野菜を実際に届けてもらうことで、「見る」だけでは終わらない「食べる」体験へと繋げることができた。											
活動における チェックリスト	✓	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。										
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか リモート畑ツアーと実際の収穫体験を共に行うだけでなく、リモート後に中継で見た本物の野菜が園に届く環境を用意することで、子ども同士のより深い関わりを促した。 画面越しに「あれは何だろう?」と話し合っていた子どもたちが、届いた本物の野菜に触れて「これさっき画面で見たやつだ!」「ツルツルしてる!」と興奮気味に気付きを言い合ったり、実際の畑ツアーでも「ここにもあるよ!」と教え合ったりしながら、3歳児と4歳児が互いに刺激を受け、発見や感動を友達や教諭と豊かに共有し合う姿が見られた。											
	✓	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。										
	※記録をどのように行ったか カメラでの写真撮影および活動を通じて子ども達の発言をメモに残して活動報告書に反映した。											
	✓	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。										
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子どもたちが自ら野菜の育ち方に興味を持てるよう、リモート中継や実際の畑ツアーを組み合わせた環境を整えた。当初は野菜の育ち方を知らない姿も見られたが、体験を通して興味が深まり、「育てた野菜はどこで買えるの?」という新たな疑問や気付きへと繋がった。教諭は子どもたちの主体的な興味をもとに活動を展開し、その後の「お店屋さんごっこ」への発展を温かく見守りながら支えた。											
	✓	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。										
	※振り返りの実施方法 職員会議の時間を活用し、リモート畑ツアーからお店屋さんごっこに至る一連の記録(写真や映像)をもとに、他学年の保育者も交えて振り返りを行った。「野菜の育ち方」への疑問が「どこで買えるの?」という社会への興味へどう繋がったか、また3歳児・4歳児がグループ活動でどのように主体的に関わり合っていたかについて、子どもの姿をもとに分析し、園全体で理解を深めた。											
	✓	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。										
	※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、芋掘り体験の様子等を連絡アプリを用いてリアルタイムに写真付きで配信し、臨場感や感動をその日のうちに共有した。また、Instagramや園だよりを随時活用し、子どもたちの気付きや遊びの発展プロセスの可視化に努めた。園内においては、会議の場で他学年の教諭へ活動内容や子どもの様子を共有した。											
✓	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。											
※継続的な実施のための工夫 リモートや実際の畑ツアーでの子どもたちの反応や興味関心に着目し、一過性の体験で終わらせない工夫を行った。「育てた野菜はどこで買えるのだろうか?」という子どもたちの疑問やアイデアを捉え、その後の「お店屋さんごっこ」へと主体的に遊びを展開できるよう、環境構成や活動内容を適宜工夫し、関わりを継続・発展させた。												